



奈良
祭時記
Vol.19

県内の無形民俗
文化財の保存活動
を紹介！

吐山はやまの太鼓踊り

奈良市 都祁吐山町

吐山の太鼓踊りとは

毎年11月23日に下部神社の秋祭りでは奉納される伝統行事です。江戸時代の写本が残っており、雨乞いを祈願する「雨乞い祈願の踊り」や、祈願が成就した御礼として行う「雨乞い満願の踊り」の奉納が起源とされています。

各地区から大太鼓が集結

当日の午後、参加者は3つの組に分かれて、別々の場所から恵比須神社を目指します。7つの地区（垣内）の幟（のぼり）を先頭に、大太鼓、踊り手、紙垂振りが続き、大太鼓を打ち鳴らしながら練り歩きます。

恵比須神社前で隊列を整えてお祓いを受け、「辻太鼓」を演奏します。その後、下部神社へ向かい、「打ち込み踊り」で各太鼓の調子をそろえながら境内に整列します。「打ち込み踊り」は「千田踊り」と続き、さらに「松虫踊り」「宝踊り」「長崎踊り」「鎌倉踊り」「糸屋踊り」「家方踊り」のうち2〜3曲を踊り、最後に「おさめ踊り」を奉納します。

踊り手は踊りながら太鼓を打ち、背面打ちなどの技を交えつつ、3人が交代して1つの太鼓を打ちます。歌、鉦、太鼓のテンポをそろえることが難しく、練習を繰り返して本番に臨んでいます。

伝統をつなぎながら、新しい挑戦もしています。最も古い元禄6（1693）年の歌本には、現在奉納されていない曲も

奈良市都祁吐山町にある下部神社で毎年11月23日に行われる伝統行事です。吐山太鼓踊り保存会のみなさんにお話を伺いました。



含めた18曲が記され、そのうち数曲を復活させました。また、多くの人に知ってもらうため、伝統行事を披露するイベントにも積極的に参加しています。

若い力で伝統をつなぐ

水不足が解消したことで、雨乞いのための太鼓踊りは昭和42年を最後に終了しました。しかし、一地域に残る伝統行事を後世に伝えたいとの思いから隔年で奉納を続け、平成6年からは吐山小学校での郷土学習や、放課後のクラブ活動に取り入れられるようになり、今では毎年奉納されるようになりました。小学校の統廃合後も地域の垣根を越えて参加者を募集し、多くの生徒が参加してくれています。

親、子、孫の3代が一緒に参加することもあり、大人と子どもが一緒になって、にぎやかな雰囲気なかで奉納しています。小学校の卒業生が太鼓踊りを教える側にもなっています。若い力に期待しながら、この地に伝わる伝統をつないでいきたいです。



保存会の
中島さん、小西さん、廣嶋さん、草尾さん



下部神社
所 奈良市都祁吐山町3957

※令和2年の太鼓踊り奉納は中止となりました。



無形民俗文化財については、県文化財保存課 ☎0742-27-8124 FAX0742-27-5386

民ニユース

奈良を知ろう

暮らしに役立つ

お知らせ